

### 3. 保健科学課（微生物）

#### 1) 細菌担当

平成25年度に実施した非定期業務は、保健所から依頼される食中毒・有症苦情検査および無症苦情検査並びに市民や行政から依頼される微生物検査であり、表1に細菌検査の検体数の総括を示す。

表1 検体数総括

区分	検体数	依頼検査	
		行政	一般
食中毒・有症苦情	797	797	
無症苦情	11	11	
その他	81	81	
計	889	889	

#### (1) 食中毒・有症苦情検査

平成25年度は、47事例、880検体について食中毒・有症苦情検査を行った。これらのうち病因物質が推定できたものは21事例、判明率は45%であった。

病因物質が推定できたものの内訳はノロウイルス9事例、カンピロバクター6事例、黄色ブドウ球菌2事例、クドア・セプトエンクタータ1事例、ウェルシュ菌1事例、腸管出血性大腸菌1事例、病原性大腸菌1事例であった。

項目数の内訳は表2に、詳細は「Ⅷ 資料」に示す。

なお、ノロウイルス等ウイルス検査の詳細は、2) ウイルス担当に掲載。

#### (2) 無症苦情検査

平成25年度は、8事例、11検体について検査を行った。項目数の内訳は表3に、詳細は「Ⅷ 資料」に示す。

#### (3) その他

その他依頼検査の内訳を表4に示した。

表4 依頼検査の内訳

区分	検体数	検査項目（件数）
菌株	47	カビ類属菌血清型別（31） 遺伝子解析（16）
従業員便	2	サルモネラ属菌（2） 腸管出血性大腸菌（2） 赤痢菌（2）
喀痰	11	レジオネラ属菌（11）
施設調査	21	レジオネラ属菌（21） 大腸菌群（1）
計	81	（86）

#### 2) ウイルス担当

平成25年度に実施した非定期業務は、保健所から依頼される食中毒・集団感染および全数把握のウイルス検査である。

#### (1) 食中毒・集団感染のウイルス検査

平成25年度は、29事例（173検体）について、PCR法でウイルス検査を行い、20事例（67検体）からノロウイルス、1事例（2検体）からサポウイルスを検出した（表5）。

#### (2) 全数把握のウイルス検査

デング熱疑い13検体について、ELISA法で9検体からデングウイルス抗体を検出した。イムノクロマト法では、デングウイルス抗体を9検体から検出、NS1抗原を9検体から検出した。PCR法では、デングウイルスを4検体から検出した。

また、麻しんウイルス検査をPCR法で行い、71検体中14検体から麻しんウイルスを検出した。一方、風しんウイルス検査では74検体中13検体から風しんウイルスを検出した。

さらに、A型肝炎ウイルス検査をPCR法で10検体について行い、9検体からA型肝炎ウイルスを検出した。

さらに、SFTSウイルス検査をPCR法で16検体について行いが、SFTSウイルスは検出されなかった。

表5 食中毒・集団感染事例の月別検出状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
ノロウイルス検出事例数	1	0	1	1	0	1	1	3	4	4	2	2	20
サポウイルス検出事例数	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1

表2 食中毒・有症苦情 検査項目内訳

		検査項目																									
		検体数	検査項目数計	サルモネラ	腸炎ビブリオ	ブドウ球菌 コアグラールゼ陽性	腸管出血性大腸菌	病原性大腸菌	ウェルシュ菌	セレウス菌	エルシニア	カンピロバクター	NAGビブリオ	ビブリオフルビアリス	ハイドロフィラ	エロモナス	エロモナス サブリア	シゲロイデス	プレシオモナス	一般細菌数	大腸菌群	カビ・酵母	エンテロトキシン	ブドウ球菌	セブテンブクタータ	クドア・	その他
ヒト便・吐物	317	2633	309	225	275	45	42	42	227	258	207	257	225	225	1	1	1	1	1	316	15						4
菌株	8	8		1	7																						
食品(残物・参考品)	312	460	44	2	37	252	1	6	32	1	17	2	2						43	16						5	
ふきとり	159	500	121	10	86	17		15	56		44	10	10						131								
その他	1	1				1																					
計	797	3602	474	237	398	315	44	248	346	208	325	237	237	1	1	1	1	1	490	31						5	4

表3 無症苦情 検査項目内訳

		検査項目																									
		検体数	検査項目数計	サルモネラ	腸炎ビブリオ	ブドウ球菌 コアグラールゼ陽性	腸管出血性大腸菌	病原性大腸菌	ウェルシュ菌	セレウス菌	エルシニア	カンピロバクター	NAGビブリオ	ビブリオフルビアリス	ハイドロフィラ	エロモナス	エロモナス サブリア	シゲロイデス	プレシオモナス	一般細菌数	大腸菌群	カビ・酵母	エンテロトキシン	ブドウ球菌	セブテンブクタータ	クドア・	その他
食品(残物・参考品)	11	20																	3	1	5						11
その他																											
計	11	20																	3	1	5						11

### 3) 感染症担当

感染症担当が平成 25 年度に実施した非定期検査は「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症法」という。）に基づく防疫検便，市民依頼の井戸水等細菌検査，ダニ等の衛生害虫検査（室内塵）および菌株等の依頼検査であり，表 6 に検査検体総括を示す。

表 6 非定期検査検体数総括

区 分	検体数	延べ項目数
感染症法に基づく防疫検便	1,204	1,204
井戸水等細菌検査	1,593	2,851
衛生害虫（室内塵）	5	5
その他	34	59
計	2,836	4,119

#### (1) 感染症法に基づく防疫検便

感染症法に基づく細菌性赤痢，腸チフス，パラチフス，コレラ，腸管出血性大腸菌感染症発生に伴う防疫検便は 1,204 件であった。それらの依頼別検体数を表 7 に，詳細を「Ⅷ 資料」に示す。

#### (2) 井戸水等検査

飲料水の細菌検査は，井戸水 915 件，水道水 272 件，プール水 44 件，船舶水 38 件およびその他 33 件であり，井戸水は一般家庭とボーリング業者からの依頼，水道水は主として「建築物における衛生的環境の確保に関する法律」，プール水は「プールの安全標準指針」に基づくものである。なお，それぞれの不適件数は，井戸水 187 件（20.4%），

水道水 15 件（5.5%），プール水 1 件（2.3%），船舶水 6 件（15.8%），その他 12 件（36.4%）であった。

また，「建築物における衛生的環境の確保に関する法律施行規則」に基づく雑用水の検査は 291 件の依頼があり，7 件（2.4%）から大腸菌が検出された（表 8）。

#### (3) 衛生害虫検査

平成25年度の衛生害虫（室内塵）の検査依頼は5件であった。

#### (4) その他

その他依頼検査の内訳を表9に示す。6件，34検体について検査を行った。

表9 依頼検査の内訳

区分	検体数	検査項目（件数）
井戸水	1	一般細菌数（1） 大腸菌（1）
水道水	4	一般細菌数（4） 大腸菌（4）
地下水	20	一般細菌数（20） 大腸菌（20）
菌株	5	サルモネラ属菌（4） 結核菌薬剤感受性（1）
健康食品	1	衛生害虫（1）
ふきとり	3	大腸菌（3）
計	34	（59）

表7 感染症法に基づく防疫検便検査依頼別検体数

区 分	計	東	博多	中央	南	城南	早良	西
細菌性赤痢	1	0	0	0	0	0	0	1
腸チフス	9	5	0	0	4	0	0	0
パラチフス	0	0	0	0	0	0	0	0
コレラ	0	0	0	0	0	0	0	0
EHEC	1,194	34	114	274	23	714	13	22
計	1,204	39	114	274	27	714	13	23

表8 市民依頼の井戸水等検査件数及び不適件数

区 分	計	東	博多	中央	南	城南	早良	西
井戸水	915 (187)	62 (20)	44 ( 8)	15 ( 3)	264 (64)	119 (17)	213 (34)	198 (41)
水道水	272 (15)	49 ( 0)	15 ( 2)	68 ( 2)	34 ( 4)	15 ( 1)	56 ( 2)	35 ( 4)
プール水	44 ( 1)	0 ( 0)	0 ( 0)	0 ( 0)	44 ( 1)	0 ( 0)	0 ( 0)	0 ( 0)
船舶水	38 ( 6)	21 ( 0)	9 ( 4)	8 ( 2)	0 ( 0)	0 ( 0)	0 ( 0)	0 ( 0)
雑用水	291 ( 7)	12 ( 0)	109 ( 2)	139 ( 4)	0 ( 0)	6 ( 0)	12 ( 0)	13 ( 1)
その他	33 (12)	0 ( 0)	15 ( 0)	0 ( 0)	13 (10)	0 ( 0)	2 ( 1)	3 ( 1)
計	1,593 (228)	144 (20)	192 (16)	230 (11)	355 (79)	140 (18)	283 (37)	249 (47)

( ) は不適件数